

# 子どもの本

研究会



【私の一冊】『よつちぼっち 家族四人の四つの人生』

齋藤陽道著（暮らしの手帖社）

只限 恭子

初めて著者のことを知ったのは、熊本日日新聞連載の「おはようと今日も手は」でした。ろう者である著者とパートナー+2人の聞こえる子ども達。異なる身体を持つ一家の日常が、漫画とエッセーで描かれています。ほのぼのエピソードから伝わるのは、温かいだけではない鋭い視点。そう感じ始めた頃、この本に出会いました。写真家である彼の生い立ちからパートナーとの出会い、そして子どもとの生活を、瑞々しい写真と共に綴っています。

こんなシーンがあります。街中で右足に障がいがある男性を見た息子が、その人のひよこひよことした歩き方を真似します。息子は「すごいね」と目を輝かせて、いたって楽しそう。その時著者は、ここは親として決して「笑ったら失礼だよ、まねもダメ」と教えてはいけなところだ、と直感します。息子に「君が前に骨折した時、ギプスが重くてびよこびよこ歩いていたね。その時とおんなじだ」と伝えます。すると「ほんとだあ！」と納得し、そのあと笑いも真似もしなくなった息子。子どもの無垢な好奇心に真摯に向き合う著者の姿勢が、強く印象に残る場面です。同時に「中途半端な思いやり」や「周りの目」にとらわれている私自身に気付く場面でもありました。こんな時、自分はどんな態度をとってきただろうか。

「痛みは、ひとりでしか抱えることができない。だからこそ、可哀想という視点のみに収まる伝え方では、どこまでも他人事ではない。けれども、ひとりぼっちで抱える自分の痛みがあればこそ、その痛みを拡げて、目の前の他者と私を重ねることができ。想像力、そして共感。それは、やさしさや強さの源」。胸にストンと落ちる言葉でした。聞こえる人と聞こえない人、様々な性を持つ人、子どもと大人、全ての人と人が、互いに差異を認め尊重し繋がる。その「難しさ」や「喜び」に誠実にぶつかっていく著者の姿が全編に溢れます。私自身、親や子どもとどう関わるか。仕事で接する子ども達とどう向き合うか。全ての周りの人、社会とどう結びついていくか。迷った時に開くのはこの本になりました。4人の「ひとりぼっち」が集う「よつちぼっち」のストーリーは、家族から拡がる希望の物語です。



（熊本子どもの本の研究会 会員）

### ◆3回連続公開講座 報告

「日本の昔ばなしを読む」第3回  
菊池のお話「ぼんざらや」

講師 森正人さん(熊本大学名誉教授、尚綱  
大学・尚綱大学短期大学部名誉教授)

◇日時 9月18日(水) 10時～11時30分

◇場所 くまもと県民交流館パレア会議室9

◇参加者 20人(オンライン2人含む)

○語り「ぼんざらや」

〔熊本のみかし話〕熊本県小学校教育研究会  
国語部会編、日本標準より)……藤田美津代

I テキスト 熊本県小学校教育研究会国語部会編

『熊本のむかし話』

再話の原典は不明だが、菊池郡で採集された  
ものか。

II 継子譚の諸型のうちの「皿々山」

この話は、継子譚、継子いじめの話であり、  
熊本では「ぼんざらや」、全国的には「皿々山」  
と呼ばれている型。柳田國男編『日本昔話名彙』

(日本放送出版協会 1948年)では、完形昔話

のうち「ままこ話」としての分類された中に皿々  
山が収録されている。関敬吾の『日本昔話大成』



(角川書店 1978年)では、継子譚の中に「二

〇六 皿々山」を立てている。沖縄県と北海道  
を除く全国から採集報告があり、日本で広く流  
布し伝承されてきた。『日本昔話通観 24 長崎／

熊本／宮崎』には、山鹿市、阿蘇郡、菊池郡、  
玉名郡、熊本市各地の採集例を12挙げていて、

県央、県北で人気の高い昔話であつたらしい。

III 継子譚(シンデレラ譚)の世界的分布につい  
て

詩人・文芸評論家・翻訳家である山室静の『世  
界のシンデレラ物語』新潮社 1979年では、

ヨーロッパのシンデレラ譚を中心に日本の継子  
物語の草子(書物)と昔話についても言及。ド

イツ文化論・比較文化論が専門の浜本隆志の『シ  
ンデレラの謎』(河出書房新社 2017年)では、

シンデレラ譚の源泉は古代エジプトの「ロドピ  
スの靴」(紀元前5～6世紀)であると言つ。紀  
元前1世紀のストラボンが書いた『地理書』に、

女奴隷ロドピスの靴を鷲がエジプトの王のもと  
に運んで落とし、王が靴の主を探し出して王妃

とするという伝説がある。これが西ヨーロッパ  
ルートでシンデレラ譚となり、中近東・アジア

ルートで日本には「落窪物語」等が生まれると  
説明。ただ、浜本は、シンデレラ譚の中核を玉

名の輿譚と見なすが、東西に分かれた物語がなぜ  
継子を主人公としているのかという疑問が湧く。

起源を問題にするよりは、むしろ継子譚が洋の  
東西で広く長く繰り返し語られていること自体  
が重要ではないか。

IV 継子譚の発生と受容

古代文学研究者の三浦佑之は、『昔話にみる悲  
と欲望 継子・少年英雄・隣のじい』(新曜社 1  
992年)の中で、日本の継子譚について、中国

からの伝播説は支持せず、各地で発生したと説  
く。この点は同意したい。

ただ、三浦は、継子いじめ譚は貴種流離譚(学  
術用語で、主人公が苦難を経て成長し偉大な事

業を成し遂げる物語の型)の話型と嫉妬譚や太  
子争い譚における対立を語る話型が結びつくこ

とによつて発生、つまり男を主人公とする物語  
が原型で、女へと逆転するのは王権の外側の人

間の物語として成立したからであると言つ。し  
かしそれなら、女の継子譚を検討して、嫉妬譚

や太子争い譚が存在しなければそれが成立し得  
ないことを証明する手続きが必要である。10世

紀の「うつほ物語」に男の継子譚があるが、仏  
典と漢籍にある話が下敷きであり、平安時代に

日本固有の男の継子譚の型は存在しない。平安

時代の

時代から室町時代にかけての昔話では、女の継子に対する継母の迫害が基本。異母姉妹が競うのは、配偶者の身分と家内の円満と子孫の繁栄であり、これが日本の継子譚の特色。

継子物語は平安時代から江戸時代前期まで類似的多数の物語が作られ、長く読み継がれている。源流は「住吉物語」だろう。また、昔話も多種多様な型が多数採集されている。起源を辿るより類似の物語が次々と生まれ時代を超えて享受されてきたことこそが重要であり、継子の話は昭和期の少女漫画や少女小説にも繰り返されている。いわばこの社会に普遍的なものであったと言つてよいと思う。

## V 熊本県の「ほんさらや」に関して

熊本県女子師範学校『特殊研究叢書 第二』(1937年)で、生徒の中尾トミ、藤尾文江が論文「継子説話の研究」で「ほんさらや」の資料を用いて考察し、菊池郡の採集例を中心に県内各地の分布および報告例の異同に関して記述した。絵本に、志岐有子・再話、福吉里加子・切り絵の『ほんさらや』(熊日情報文化センター 2007年)があり、これは『熊本のみかし話』を元に熊本方言を用いての再々話。

## VI 「ほんさらや」の特徴

第一は継子の援助者が登場しないこと。一方、ヨーロッパのペロー童話集、グリム童話、日本の「姥皮(はばかわ)」、「鉢かつぎ」、「住吉物語」 「落窪物語」では、継子の援助者が出てきて、背後に亡き実母の霊とも言える力が働いていることが読み取れる。

第二は、娘が殿様の目にとまる場所と機会。『日本昔話通観 24 長崎／熊本／宮崎』でみると、娘は川で菜を洗っている時と語られることが多い。洗濯をしている時、シラミ取りをしている時もある。水のほとりや橋の上は、異なる世界に住む者が出会う場所という約束事がある。娘と殿様という身分の違いを超えた結婚が成り立つ時、出会いの場所は重要である。

第三は花嫁の条件。かわいい、気立てがいいと言っているが、中心は理知ある応答と即座の詠歌。一方、他の継子譚は容姿や気立てのよさが条件。日本の物語、例えば「住吉物語」では亡き母は皇女や皇族であるという出自、いわゆる高貴さと容姿、教養が語られ、室町・江戸時代の草子になると隠された美しさが強調される。即座の詠歌は、女性の教養あるいは才能として称賛されることである。「ほんさらや」はそうい

う伝統を引き継いでいる。

### ○質疑応答・感想など

■「ほんさらや」の舞台・泗水町三万田は海から遠い。話の中で塩が使われているのはなぜか。  
■雪のことではないか。

〔森〕塩に松を立てるのは各地の話に共通。「雪を根として育つ松かな」で、雪に見立てる。見立ては歌を詠むときの一つの基本。台の上に作り物を並べて鑑賞する「洲浜」というものが平安時代頃からあり、これはその一種だと思う。平安時代に左右に分かれて歌を出し合つて優劣を決める歌合せという遊びがあった。その時に「洲浜」を作り、人物や樹木を配置し、詠んだ歌もつけた。平安時代の歌の遊びに繋がる話ではあると思う。

■父親が出てこないが出てくる話はあるのか。  
〔森〕ないと思う。継子いじめの話の一つの特徴で、父親は何の役にも立たない。これは東西同じ。継母と継娘との対立、あるいは継娘と実娘の姉妹同士の対立に焦点が当てられている。  
■「異母姉妹が競うのは、配偶者の身分と家内の円満と子孫の繁栄」について伺いたい。  
〔森〕平安時代の継子譚には、継母による継子への迫害と異母姉妹同士の争いがある。主人公

の継子は、高貴な男性（貴公子）と結婚し、男は他に女を作らず家庭円満。男の子も生まれ、子どもも出世して家が繁栄する。一方で継母の娘は貴公子の画策により卑しい男と結婚する。これが継子譚で語られる内容である。



■昔話は場所や時代を特定しないが、この話は泗水町・三万田とある。各地の昔話で場所が特定されていることは多いのか。

〈森〉多くはない。珍しい。ただ、昔話は伝説化していく傾向がある。昔話であったものが土地に根付き、土地と結びつける語り方になっていく。聞き手を意識して語るとそうなるのではないか。



■歌は貴賤に関係なく作れたのか。

〈森〉万葉集は天皇から農民までの歌と言われ、そのこと自体は否定しにくい。編纂者の手が入っていて、民謡みたいなものを個人の創作した歌という形で記録されることも多かった。実際に歌を詠むには相当の教養が必要。農民も歌が詠めるようになるのは江戸時代に入ってからだが、裕福な農民で、都の冷泉家等から指導を受けた。国学者が活動する時代には本居宣長に指導を受けたりした。農民の娘がさらさらと詠めるということはない。これはお話で、即座

に当意即妙の歌を詠んだという語り方の伝統を受け継いでいると考えた方がよい。

■歌を詠む能力を、亡き実母が教養として与えていたと考えると、実母が援助者であるという見方もできるのではないか。



〈森〉むしろそこを語らず、お藤自身の才覚・理性的なものを強調している。これが小気味よさを感じさせる。お藤は心優しい娘だが、最後に「ふじふじと呼ばれることもきょうかぎりあすよりのちはお藤さまさま」と言って去っていく。これは平安時代の伝統をベースにした話とは異なる。「落窪物語」では、姫は自分を迫害した母親でも、自分の夫の復讐はやりすぎだと思ひ、異母姉妹にも心配りをする。ところがお藤は歯牙にもかけない。これがこの話の人気の高さかなと思う。子どもたちはどう思うのだろうか。

■幼い時に祖母から聞いた。覚えてるのは、最後の「お藤さまさま」。でも、志岐有子・再話の絵本『ぼんさらや』は最後が違う。

■絵本は「ふじふじとよばれることもきょうかぎりあすよりのちは殿の奥方」。

■再話者がおばあさんから口伝えに聞いた話はそうなっていたとおっしゃっている。



■シンデレラ（ATU510A）の話型では、灰にまみれて暮らす主人公は超自然的な存在の助けで舞踏会に行き、王子の心をとらえる。日本

の昔話「米福栗福」でも継子は援助者の助けで祭り見物に行き、長者にみそめられるなど、モティーフの一部で類似がみられる。



■絵本『うばのかわ』（長谷川摂子・文、小西英子・絵、岩波書店）では、観音信仰が描かれて継子譚が語られる。「ぼんさらや」にも観音信仰があるのか。

〈森〉「住吉物語」では観音が一組の男女を助け、観音と実母が無関係ではないことを示唆的に語る。母と観音の結びつきは深い気がする。観音は、女性がよく信仰し、観音という菩薩をさかのぼっていくと大地の女神という性格を帯びているらしいことに結びつきがあるように思う。ところが、「ぼんさらや」に関しては、そういう援助者はいないことが面白い。

（報告 木村一恵）

「ご寄贈ありがとうございます」

公益財団法人 東京子ども図書館から『読者としての子ども』（松岡享子著）『設立50周年記念号（こどもとしよかん 183）』おはなしのろうそく34』を「寄贈いただきました」。

# 講座報告 紙芝居を楽しもう

日時 10月16日(水) 10時~12時

会場 熊本市立図書館集会所

参加者 11名

担当 辻 由美

## 〈やってみよう紙芝居〉

### ◎三面開きの舞台を使う

舞台の枠の中で現実ではない別の世界が出来る。観客はその世界に引き込まれる。紙芝居の絵は舞台の中に入れて演じられるように描かれている。舞台を使うことで画面をさつと抜いたり、ゆっくり抜いたり、途中で止めたりして演出効果を高めることができる。枠内で上下、左右、前後に画面を動かすことも同様である。作品によっては、舞台を使用しない方が楽しめる作品もある。

### ◎紙芝居を演じる

観客参加型紙芝居(観客との対話、言葉のやりとりがある)は、楽な声で明るく、が基本である。観客の声に反応しながら笑ったり驚いたり、演じ手も一緒に楽しむ気持ちが大切。物語完結型紙芝居では、会話||せりふ、語り||地の文、擬音語・擬態語など、はつきりとした言葉で登場人物・動物の気持ちや状況を観客に伝える。



### ◎実践に当たって

①下読みをした後、舞台に入れて声を出して演じて練習 ②会場作り 舞台は観客の頭より少し高めにする。背景に物がなく逆光にならないようにする。演じ手は舞台の下手横や後ろに立つ。または椅子に座る ③紙芝居の枚数、順番を確認して舞台に入れる ④舞台の扉は演じ手から遠い扉を最初に開きはじめる ⑤作者名(原作・脚本・絵)と題名を読む ⑥内容を演じる ⑦終わりをあらわす言葉(例えば「おしまい」)を丁寧に言う(※注・最初の場面に戻さない) ⑧ゆっくりと演じ手に近い扉から閉じる。

### ◎演じ方

大きさに演じなくてよい。心を込めて演じれば、登場人物や動物たちの気持ちを自然に一生懸命伝えたいくなる。七色の声の発声練習の必要はない。むしろ自然に心を込めて演じればその世界が観客に届くのが紙芝居である。(『紙しばいだいすき』童心社冊子より)

演じ手は舞台の後ろに隠れない、舞台のそばから離れない、声色を使わない、作品世界を離れたパフォーマンスやオーバーアクションをしない。(『紙芝居百科』童心社より)

〈実演作品〉『きげんのわるいコックさん』

(脚本・絵まついのりこ、童心社) ▼『やさしいまものバツパー』脚本 野坂悦子 絵 降矢なな、童心社 ▼『かさじぞう』(脚本 松谷みよ子 画まつやまふみお、童心社) ▼『よいしょよいしょ』(脚本・絵まついのりこ、童心社) ▼『ニャーオン』(脚本 都丸つや子 絵 渡辺享子、童心社) (報告 辻 由美)



### 〈参加者より〉

▼紙芝居はどこで手に入るのか↓童心社と教育歌劇のものがほとんど。書店、ネットで購入できる。図書館でも貸出している。紙芝居のグループもあり、研修会等も行われている。

▼紙芝居は、見る側の視線が舞台に行って、集中するものですね。いろんな紙芝居が見られてよかったです。

▼紙芝居はどんな風に作られているのか↓出版社の編集者が、作品を脚本家や絵の制作者に依頼する形で作られている。枚数は8枚、12枚、16枚等印刷の都合で決まる。12枚で8分位が、ちょうどいい。前編・後編のものもある。

▼古本屋で紙芝居を買った。図書館で紙芝居舞台を借りてやったら、全然子どもの入り方が違ってた↓マイ紙芝居をひとつ手元に持つておくと

必要な時にすぐ出せる。

▼「かさじぞう」の紙芝居を観て、絵本との違いがよくわかった。

▼図書館で選ぶのが難しい。使い方の練習が必要と思つた↓紙を抜いたり止めたりするタイミングや、「間（静けさ）」を上手にとる事が大事。細かい注意点があり、子どもの反応を見ながらやる必要がある。

▼学校で、大人数だと絵本の絵がよく見えないので、紙芝居を自作し、子どもたちに喜ばれた。

▼紙芝居は舞台だなあ、と思つた。迫ってくるものがある。絵本との違いについて、紙芝居作家のまついのりこさんは、「絵本は、絵本の中に人々が入っていく。紙芝居は演じる者の心を通して、絵から前に人物を押し出してくる。紙芝居では、共感の喜びを表現している」とおっしゃっている。

▼びわの木文庫にも紙芝居があり、学童保育の方がよく借りていかれる。子どもたちが自分でやる、といつて、大きい子が小さい子に紙芝居をやっている場面もあつたとのこと。

▼子どものころ、紙芝居を作つたことがある。

紙芝居には創作意欲を喚起する面もあるのではないかと思う。

(報告 益田 勝行)

## ◇報告 オンライン講座

### 第4回「グリム童話の魅力」

日時 8月25日(日) 10時〜12時

講師 竹内識晃(東京家政学院大学非常勤講師)

参加者 4名

【講師から】

「グリム童話の魅力」は、『子どもと家庭のメルヒェン集』(通称『グリム童話集』1857年)を比較民話学の観点から読み解く講座です。第4回では「七羽のからす」(KHM25)を取り上げました。

今回の講座では、昔話の比較研究がどのような手順で行われているのかを「七羽のからす」とその類話を用いて具体的に確認していきました。話型(タイプ)とは、昔話を構成するモチーフが一致し、配列順序も同じ話を同一の話型とみなすと考える昔話分類の単位です。また、ある昔話がモチーフの構成において、特定の話型と一致している場合に、その昔話はこの話型の類話と呼びます。

昔話の国際比較では、『昔話のタイプ』(AT)や、それを改訂したH・J・ウター『国際昔話型型カタログ 分類と文献目録』(ATU)などのタイプ・インデックス(昔話の話型分類および

び索引)が使われています。昔話集には、ATやATU番号がつけられたものも多く刊行され、類話を検索するときに参考になります。

グリム童話の「七羽のからす」はAT451 / ATU451「兄弟を捜す少女」に分類されています。この話型は動物に変身した兄弟を妹が捜しに行く話です。「七羽のからす」は、『グリム童話集』に「十二人兄弟」(KHM9)と「六羽の白鳥」(KHM49)という類話が2話あります。今回は、ハンガリーの昔話「七羽の鴉」『池田雅之訳』(『ハンガリーの民話 2版』恒文社、1991年)をあわせて読み、比較を行いました。なお、バジール『ペンタメローネ』「七羽の鳩」も類話です。

この話型では、兄弟はからすのほかに白鳥などに変身します。人間の鳥への変身を死者の魂が鳥の姿になるという民間信仰と結びつける考えもあります。ヤーコプ・グリム『ドイツ神話学』では「抜け出てゆく魂を花として咲かせ、鳥として飛翔させるのは、いずれも優美な観念である。両イメージは、植物や動物への変身があり、太古に信奉されていた輪廻「魂の遍歴」の説に基づいている」(高木昌史著『グリム童話を読む事典』三交社、2002年)と述べてい

ます。動物への変身は死を象徴しているのです。

「七羽のからす」では、妹が救済者となり、兄たちを捜し、この世の果てまで旅します。そこで太陽、月、星たちに尋ね、暁の明星がようやくガラス山を開けるためのひよこの肢をくれたので、妹はガラス山へと向かいます。妹は途中で肢をなくしますが、自分の小指を切って、それでガラス山の門の鍵を開け、兄たちと再会します。



ガラス山は死の国の象徴として、昔話に登場します。兄たちは、死者たちの滞在場所に足を踏み入れてしまったのです。『ドイツ神話学』では「罰を下された魂は、罰としてその山「ガラス山」を登っていかねければなら」ないとし、「鶏の足を（熊の爪のように）ガラス山に持って行って、最後に、自分の小さな指を、その山を登り切るために、あるいは鍵を開けるために切り取る少女は、あたかも自分の失われた兄たちを「山ならぬ」地下世界に捜しに行くかのような感じではある」（高木、前掲書）と述べています。「七羽の鴉」でも、妹は兄たちを尋ねて旅をします。妹は途中で狼、狐を助け、小鳥にケーキをあげると動物たちは恩返しを約束します。狼がドナウ川を、狐が真夜中海を渡らせてくれ

ルビー海も小鳥の助言で渡ることができ、妹は兄たちと再会できます。

「十二人兄弟」と「六羽の白鳥」では、妹が兄たちと再会するのは、「七羽のからす」ほど難しくありません。兄たちの呪いを解くのが大変なです。妹は兄たちの呪いを解く方法を知りますが、「十二人兄弟」では、七年間口をきいてはいけない、「六羽の白鳥」では、口をきかないことに加えて、兄たちの肌着を縫うという訓練を妹は克服しなければならぬのです。



「救済する任務を負った者は、一定期間、いくつかの条件で沈黙を守る」（高木、前掲書）ことで、動物に変えられていた人物を救済することができます。『六羽の白鳥』では、一枚の肌着の片袖がまだできあがっておらず、人間の姿にもどった一番下の兄の片腕が白鳥の羽のままだったと語ります。ハンス・クリステイアン・アンデルセンの「野の白鳥」はデンマークの昔話の再話です。この話でも、十一枚目の片方の袖が仕上がっていなかったので一番末の王子には、片方の腕がなく、白鳥の翼がついたままです。



兄弟たちが鳥に変身する原因には「七羽のからす」や「七羽の鴉」のように、親が呪う場合



「六羽の白鳥」のように、王妃が魔力を縫い込んだシャツを投げかける場合、「十二人兄弟」のように、兄たちの魂の象徴である花を妹が知らずに折ってしまう場合があります。グリム童話の「からす」（KHM93）でも、王妃が幼い娘に呪いの言葉を発し、からすになって飛んで行く部分は、モティーフの一致がみられます。

「七羽のからす」やその類話は、呪いによって動物に変身した兄たちを妹が救済する話で強く印象に残ります。



（竹内識見）

（受講者から）

ハンガリーの類話にドナウ川が出てきて地域性を感じた▼最初に読んだときはあつさりしていると感じたが、マックス・リュティの『ヨーロッパの昔話』などを読んだ後に再読したら、シンプルなストーリーが心に沁みだ。地の果てまで旅して妹が兄たちを救う展開は女兒が聞くのと感動するのでは▼句型や類話について理解できた。呪いと願いが関係していること、救済には沈黙が必要であることなど興味深かった▼毎回の講座が昔話を理解する手助けになる。以前いただいたグリム童話絵本のリストは読み聞かせをする際にとっても役立つている。



## 12月、1月の活動の案内

### ○講座 『初茜』に学ぶ

4号「私の絵本づくり 赤羽末吉」

日時 12月18日(水) 10時～12時

場所 熊本市立図書館集会所

### ○講座 夢へ挑戦する少年少女を描いた絵本

日時 1月15日(水) 10時～12時

場所 青年会館第一会議室

\*講座申込アドレス kouza@kodomonohon.org

### ○おはなしボランティア「びわの木」活動

・12月9日(月) 13時半～14時

熊本県立熊本支援学校

・12月16日(月) 13時～13時半

熊本大学教育学部附属支援学校(中学部)

・12月20日(金) 13時～14時15分

江津湖療育医療センター

・12月20日(金) 13時20分～13時50分

熊本大学教育学部附属支援学校(小学部)

・1月17日(金) 11時～11時半

熊本市立図書館(1、2歳児)

・1月25日(土) 14時～14時半

熊本県立図書館(幼児・小学生)

・2月6日(木) 11時～11時半

熊本県立図書館(0歳児)

### ○研究会活動検討会(オンライン)

日時 12月7日(土) 10時～12時

\*申込アドレス zoom@kodomonohon.org

### ○「びわの木文庫」貸し出し予定日

12月7日(土)、8日(日)、21日(土)、22日(日)

1月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)

お越しになるときは事前にご連絡願います。

### 谷川俊太郎さん、

ありがとうございました。

詩人の谷川俊太郎さんが11月13日の夜、亡くなられました。92歳でした。

熊本子ども本の研究会は、前理事長(横田幸子)が亡くなった時に「美人で無邪気な可愛いおばあさん」との追悼コメントをいただき、谷川さんには本当に可愛がっていただき、ありがとうございました。1993年の研究会10周年記念の対談に工藤直子さんと一緒に来ていただいてから、1994年(佐野洋子さんと西成彦さんとの鼎談)、1999年(出版記念音楽会)、2001年(谷川賢作さんとのびわの木文庫30周年記念「トーク&詩の朗読と音楽の夕べ」)、2003年(研究会20周年記念事業「ことばと音の新たな世界」)、2011年(びわの木文庫40周年記念事

業…高校生によるインタビュー、アーサー・ビナードさんとの対談)、2013年(研究会30周年記念事業 覚和歌子さんとの「谷川俊太郎さんと高校生の座談と音楽を楽しもう」と、計7回も研究会のイベントのために熊本に来ていただきました。そしてその時々谷川さんの軽妙で温かみのある言葉には、『神話的時間』『日本語の新しい方向へ』『初茜』で触れることができます。高校生達と同じ目線で楽しそうにお話しされる谷川さんの姿は、今でも目に焼き付いています。30周年記念事業の際に大岡信さん、鶴見俊輔さん、谷川さんが一緒にご揮毫いただいた色紙を含め、本当に多くのものを残していただきました。

お嬢様親娘に見守られる中で穏やかに逝かれたとのこと。ご冥福をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。(横田 真)

■編集川金子・上林・横田 《イラスト》安田

特定非営利活動法人

熊本子ども本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区西原1丁目15の24

電話 096(382) 5090